

# テクノス通信 VOL. 12 May.2010



## 「赤外線コールを使って、いろいろなタイミングで報知！」

離床センサーは対象者に合わせてセンサーの種類を選定、導入をして頂いていますが、対象者の状態が変わった時や対象者自体が変わった時などに、既に導入していたセンサーが上手く運用できなくなった、ということはないでしょうか。最近では入院日数も短くなり、患者様の状態が日ごとに変化することも少なくありません。そんな時には、設置位置によって様々なタイミングで報知することができる「赤外線コール」が便利です。今回は設置の注意や管理方法、活用工夫についても特集しましたので、ぜひご参考ください！



### 赤外線コールはどういうセンサーで、どういう人に有効なの？

こんなセンサー

- \* 赤外線センサー（光）とモーションセンサー（温度）、2つのセンサーで検知
- \* 検知範囲：センサーから約1.8mにおいて、約500×500mm
- \* 自在クランプを使って、様々な位置に設置可能

こんなケースに

- \* マットタイプのセンサーに気付き、避けてしまう方
- \* マットレスとの相性により、ベッド上に設置するベッドセンサーが使用できない場合



### ● こんな設置ポイントがあります！ ●

#### 『設置のポイント』

赤外線コールは目に見えないセンサーで検知をしますので、設置や運用には慣れが必要となります。

ある病院様では、導入当初はMEが指導しながら設置を行っていたのですが、指導や研修を重ねることにより、現場スタッフが設置のポイントをつかみ、上手く活用できるようになったそうです。

#### 具体的には…

- \* 適切な時間設定：起き上がり・立ち上がり・通過など、検知したいタイミングに合った時間設定を行う
- \* 設置位置・向き：テストモードを使い、実際の動きで照射範囲を確認する
- \* 設置環境の確認：検知に影響を与える可能性があるため、直射光・温風は避ける

#### こんな点に注意！

- \* 患者様やスタッフ、車いす通過時に当たって設置位置や向きが変わらないようにする  
→ フットボードに横向きではなく、下向きにぶら下げるように設置する（右図参照）  
注）低床ベッドにぶら下げる場合は下げすぎて床と接触しないよう注意する
- \* スタッフが検知範囲に入ることによる誤報を避けるため、センサーのスイッチを切ってから介助する
- \* 設置するボードなどが厚い場合は、自在クランプのロングボルトも用意しています。



### ● こんな設置工夫・活用方法があります！ ●

#### 課題ケース①

ヘッドボードでは患者様がセンサーをさわってしまい、フットボードでは蒲団がかかり上手く設置できない…

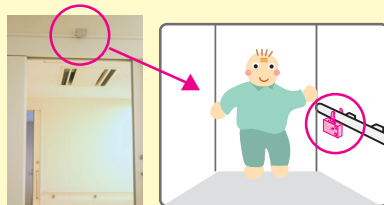
- ① 固定型の点滴台・ポールに設置する
- ② ベッドの横柵に設置することで、患者様の諸動作による誤報なく、運用することができた。



#### 課題ケース②

部屋から出るタイミングで検知するため出入口に設置したところ、居室内の行動を自由にしていると誤報が起きてしまう…

廊下側の手すりに逆さに設置することで、手すりの運用を妨げず、また誤報もなく運用できた。



※出入口口に設置して運用されている現場様もあります。

#### 課題ケース③

床敷きタイプのセンサーを使用していた患者様が回復され、報知のタイミングが間に合わなくなっていました…

回復初期は床に足を下ろしたことを知らせるように足元に設置、回復が進み行動が早くなれば、より早いタイミング（ベッド上での起き上がり）でお知らせするようヘッドボードに設置することで解決した。

